

総合特別区域の進捗に係る評価
[観光等分野]

令和2年度

奈良公園観光地域活性化総合特区

[指定：平成25年9月、認定：平成26年6月]

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値 $(1.7+3.3)/2=2.5$

2.5

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	奈良市の観光入込客数の増加	66%	3
2	奈良市の宿泊者数の増加	29%	1
3	奈良市の観光消費額の増加	38%	1

評価指標毎の進捗の評価の平均値 $(5 \times 0 + 4 \times 0 + 3 \times 1 + 2 \times 0 + 1 \times 2) / 3 = 1.7$

1.7

・1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。
(例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

3.3

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii) の平均値 $(4+3.5+4)/3=3.8$

3.8

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

4.0

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

3.5

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

4.0

Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

3.5

- ・インバウンド客に代わる当面のターゲットとして、奈良市の価値が分かる方へ重点を置くなど再設定が求められるほか、アフターコロナを見据え、地域通訳案内士の具体的な活用方法について官民連携で検討していくことが望ましい。
- ・今後都市間競争が激化する中、奈良公園のこれまでの歴史文化や自然を基盤としながらも、DX推進を見据えたデジタル技術を駆使した見せ方や楽しみ方、SDGsを意識した公園としてのブランドを打ち出すなど、次なるステップの機会と捉えるべき。
- ・来訪者数に左右されない取り組みを高く評価する。改修など受け入れ整備に注力している点は今後、大きな成果に結びつくだろう。
- ・資源の活用という面については、Wi-Fi整備やデジタルサイネージ、あるいはイベント開催など、抜本的に魅力を高め活用を促進するようなものとなっているとは言いがたく、資源維持を進めつつ、いかに新たな活用の方策を提示していくかは、もう一段階工夫が求められる。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

3.5

総合評価

I、II及びⅢを1:1:2の比率で計算 $(2.5+3.8+3.5 \times 2) \div 4 = 3.3$

3.3

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

- ・評価は5～1(評点)で行う。
- ・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。
- ・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。